

## 令和4年度 東北ブロック 事業報告

### 1. 活動テーマ

「未来を創造する公衆衛生看護活動の展開～保健師活動の原点から住民とともに創る未来～」

### 2. 目的

全国保健師長会の活動を共有するとともに、新たな施策や健康危機管理など様々な実情に合わせて、地域に責任を持った専門性の高い公衆衛生看護活動を推進する。

### 3. 実施状況

回	開催日	場 所	内 容
1	令和4年 10月1日(土)	杉妻会館(福島市)	<b>【第1回理事・支部長会議】</b> ○出席人数 会議出席者：12名 事務局(福島県支部役員)：8名 ○内容 ・全国保健師長会理事会報告 ・全国保健師長会推薦委員に輪番について ・各県支部活動状況報告 ・情報交換
2	令和4年 10月1日(土)	杉妻会館(福島市)	<b>【ブロック研修会】</b> ○参加人数 187名 (会場参加：29名 オンライン：158名) ○内容 1. 全国保健師長会活動報告 2. 実践報告 福島県児童相談所の活動報告 福島県喜多方市の取組報告 3 講演 テーマ「子育て世代包括支援センターと子ども家庭 総合支援拠点の一体的な支援に向けて」 講師：公益社団法人母子保健推進会議 会長 佐藤 拓代 氏
3	令和5年3月 〈支部・理事会〉	メール会議	<b>【第2回理事・支部長会議】</b> ・拡大常任理事会等の報告 ・次年度研修計画 ・活動評価

#### 4. 結果・課題

##### 【支部長会で出された課題】

- ・コロナ禍で疲弊する保健師、離職する保健師が増加している。
- ・加入していない市町村保健師長を孤立させない工夫が必要。

##### 【各県の状況】

- ・青森県・秋田県は現場の声、リーダーの声を集めた市町村アンケートを実施し、保健師活動体制の変化、各種事業及び保健師活動の影響、活動上の課題、アフターコロナを見据えた活動についてまとめた。
- ・宮城・秋田・山形・福島は実態調査を行っていないが、保健師の疲弊、時間外勤務が多く体調不良を訴える保健師の増、離職・休職した管理期・中堅期の保健師がいる旨の報告がそれぞれの支部長から報告された。
- ・アンケートを実施した青森・岩手の結果を各県支部でも共有し、創意工夫している取組事例を参考に、未曾有危機下における現状や思い、取組を伝承することで保健師の支えの一助としていく。

##### 【研修会】

集合・WEB形式で実施。遠方の会員も気軽に参加できることで、母子保健・児童福祉を担当する若手保健師の参加も多かった。

令和6年度からのこども家庭センター展開に向けて、市町村保健師の役割や効果的な支援・組織体制等について理解を深めることができた。

#### 5. 支部活動の特徴

東北6県6支部で構成されているが、令和5年度から推薦委員候補に関しては北海道ブロックと合同で対応することとなった。

各支部から共通の課題として、会員数の減少があげられている。会員拡大に向け、活動の見える化や魅力を未会員にどう伝えていくか、今後も各支部との情報交換を密に行い、支部活動の充実を図っていく。

#### 6. 委員・支部長

○理事	尾形 幸子	福島県県南保健福祉事務所健康福祉部
理事	飯田 貴子	青森県野辺地町役場健康づくり課
青森県	小川 良子	青森県六ヶ所村健康課
岩手県	浅沼 圭美	岩手県矢巾町健康長寿課
宮城県	只野 里子	宮城県高等看護学校
秋田県	小林 裕子	秋田県平鹿地域振興局福祉環境部健康・予防課
山形県	渡部 順子	山形県最上保健所保健企画課
福島県	三瓶 ゆかり	福島県県北保健福祉事務所健康福祉部